

尾張旭市総合計画基本構想について

討論要旨 谷口武司議員

第六次総合計画は、令和6年度を初年度として10年間の期間を見越した市の最上位計画となります。私ども市議会とも3回の意見交換を実施していただき、そこで出された意見も幾つかこの総合計画の中に反映をされていて、いるものだと思います。

去る12月14日に開催された総務委員会の場で、これまでの総合計画から大きく変わった点というのを伺いました。避けることのできない少子高齢化の波の中へ向かっていくに当たり、都市の成長という側面に加え、市民などの暮らしに焦点を当てた、人を中心とした計画とすることを念頭に策定を進め、新たにまちづくりの基本方針が基本構想に定められていることが大きな変更点であると答弁をいただいております。

その基本方針の中では、行政の作成する文書ではあまり見ない「楽しさ」といった文言を使うなど、人を中心とした今回の総合計画基本構想の特色を見ることができました。

また、「幸せつむぐ 笑顔あふれる 尾張旭」を目指すまちの未来像としていますが、この「幸せをつむぐ」の紡ぐにはどんな思いが込められているかについての質疑には、縦糸と横糸を織り上げて布にしていく様子、また長い時間軸の中で歴史を紡ぐや物語を紡ぐといった言葉を引き合いに、過去から現在、そして未来に向けての多くの人々が幸せを積み重ね、次世代につなげていくという意味を、紡ぐという言葉に込められていると答弁をいただきました。

行政の計画期間としては中長期に当たるこの計画ですが、令和6年度から紡いでいく物語の始まりを予感させてくれる言葉だと感じます。また、要望として、この紡ぐという言葉に基づき、未来へ向けてしっかりと縦糸を伸ばす事業を計画するとともに、無形・有形文化財保護などにも一層の光を当ててもらいたいと思います。

現状当たり前にあることで記録として残さないと、50年後、100年後の世代にはこの歴史は紡がれていきません。市内にある多くの縦糸を拾い上げて、今という横糸を紡いでいって、大きな尾張旭の布を織り上げていってほしいと思います。

最後に、第五次総合計画には、その基本構想に計画人口という項目がありましたが、柴田市長が、少子高齢化や人口減少が最大の課題とされているにもかかわらず、この本計画から計画人口を省いた理由、将来にわたる税収、施設規模、まちの再開発や各種事業の根拠となる人口を想定しなくて本当によいのか伺いましたところ、第六次総合計画における人口については、従来の計画実施によって目指す目標という位置づけから、計画策定

のための基礎としての位置づけへ変更し、計画書の中に人口推計やその分析を掲載することとしたこと、また、本市においては、柴田市長の指示の下、人口問題対策本部が既に設置され、より現実的な対応が進められていくことの確認をさせていただきました。

以上のことから、私は、少子超高齢化・人口減少が明らかな、ややもすれば暗い雰囲気になりそうな新たな時代ではありますが、尾張旭市において、この第六次総合計画基本構想を基に、人を中心とした、幸せが紡がれる、楽しさを感じられる事業が数多く進められていくことを期待して、本基本構想についての賛成討論とさせていただきます。